

小学部の取り組み

1. はじめに

小学部では、次の目標をふまえながら、児童の障がいや発達段階に応じた指導内容を検討し、児童の実態に応じた指導に取り組んでいる。

- (1) 「個別の教育支援計画」及び「個別の指導計画」を立案し、一人一人の課題に応じた指導を進める。
- (2) 朝の会や帰りの会の時間を活用し、あいさつや返事をする機会を増やす。
- (3) 豊かな表現力を身に付けるため、自然体験や社会体験などの体験的な活動を行う。
- (4) 学習活動をより充実するために、療育相談（PT・ST・OT）の活用・専門機関（療育）との連携を図る。

2. 児童の実態（在籍児童数30名 平成29年12月現在）

		1年(6名)	2年(6名)	3年(4名)	4年(5名)	5年(9名)	6年(0名)
移動	自力歩行			1		2	
	介助歩行						
	車椅子	6	6	3	5	7	
食事	自立						
	一部介助			1			
	全介助	6	6	3	5	9	
排泄	自立						
	一部介助			1			
	全介助	6	6	3	5	9	
コミュニケーション	会話						
	単語・2語文						
	表情・動作	6	6	4	5	9	

3. 取り組み

小学部では、児童の障がいの重度・重複化が進む中、生活年齢や在籍児童数を考慮して、今年度は1・2年生グループ 3・4年生グループ 5年生グループ（今年度は6年生の在籍がない）の3つの学習グループを編成し、指導に当たった。また、週2時間、1年生から5年生までの課題別の学習グループを編成した「縦割り学習」も行った。

火曜日の午後には、「クラブ活動」の時間を設定した。この時間に、4・5年生の児童は、いつもの学習グループとは違う1・2・3年生の教員と一緒に集団活動やゲームを楽しむという取り組みをしている。このように集団の構成を指導内容により工夫改善していくことで、学習活動や学校生活がより効果的に行われるように努めている。

また、児童一人一人の教育的ニーズを正確に把握し、長期的な視点で一貫した支援を行うために

「個別の教育支援計画」を作成している。そして、支援の方針、内容・方法等を教員同士、あるいは保護者と共通理解し、連携して支援を行うようにしている。

交流教育に関しては、大阪市立大和田小学校と計画的・継続的に交流を持ち、経験を広げながら進んで人と関わろうとする態度を養っている。また、居住地校交流では希望した児童が、居住地の小学校での授業や行事に参加し、地域や居住地校の児童たちとのつながりや相互理解を深めている。

4. グループの時間割

【5年生グループ】

	月	火	水	木	金
～9時	登校				
9時～ 9時30分	検温・トイレ・水分補給・個別活動・元気体操				
9時45分～ 10時5分	朝の会				
10時10分～ 10時50分	おはなし	しぜん	つくる・さわる	リズム・からだ	たてわり学習
10時55分～ 13時25分	給食準備 「あつという間劇場」				
	給食				
	給食片付け・休憩・リマック体操				トイレ・水分補給 終わりの会 (13時下校)
13時30分～ 14時10分	自立活動	クラブ (4・5年生)	たてわり学習	学級活動	
14時15分～ 14時55分	個別活動・トイレ・		水分補給		
15時～ 15時10分	終わりの会 (15時15分下校)				

※1年生は、火・木曜日は13時下校（スクールバス1便下校）

※2年生は、火曜日と1学期の木曜日は13時下校（スクールバス1便下校）

※3年生は、火曜日は13時下校（スクールバス1便下校）

5. おわりに

小学部の児童は、全員が重度重複の障がいがあり、さらに医療的ケアの必要な児童が多いため、保護者・養護教諭・看護師との連携が必要不可欠である。また、教員間の綿密な打ち合わせ・意思統一もますます重要となってきた。授業や学校行事など日々の教育活動は、個々の児童に十分な配慮をしながら取り組んでいるが、今後も児童が学校・家庭・地域でより豊かな生活を送ることができるよう努めていきたい。